

2. 久之浜編

2014.10/17 (金)

●開催終了報告



なぜその地に居続けたいのだろうか？

3.11以降

東北の文化を考える



(サポートチーム・パフォーマー) 濱中 峻さん



いわき市立好間第一小学校 校長 松本光司さん



(久之浜大久地区まちづくり) サポートチーム 共同代表 栗田 祥弘さん
(いわき市議会議員) 木村謙一郎さん
(同上) 濱中さん



三地域横断座談会

ご好評をいただいています、東北3地域横断座談会「第2回—久之浜編」が開催され、70名もの来場をいただきました。

今回、久之浜編でのゲストは、地元の小学校に被災後に赴任され、原発30キロ圏内でこの3年半の間、放射線から子供達のことを考えてこられた松本校長。そして津波で家業を無くされ、自ら一念発起され市議会議員となられた木村さん。いち早くこの地にサポートチームを組織し入られた栗田さん。ここでは短編のパフォーマンスとして、かつて水産業で栄えた街・久之浜の賑わいを表現していただきました。会終了後には久之浜ご出身のご夫人からパフォーマンスや本会を企画・開催した協会、そして関係者に対して御礼のお言葉をいただきました。

なお、本部会で生前、久之浜に取材同行された故日高単也副会長が、その際、久之浜の情景を形とされたオブジェも会場に特別に展示され、故人を偲びました。

次回、11月28日(金)に第3回「田村編」が開催されます。会場はこれまでの1、2回目とは異なりますので会場の場所、収容人数も小さくなります。「案内チラシ」をご確認のうえ、ご参加くださいますようお願いいたします。詳しくは <http://www.aacajp.com/schedule/jyoho/> をご覧ください。



第2回東大散策ツアー



日高作品を囲んで

《聞いてみました…久之浜編》

“なぜ ご長男である貴方が、水産会社という家業を辞めてまで市議会議員になられたのかを伺いました。「そう…、やはりあの時の街の風景を見て、何かしなくては…と、自分の故郷だから…家は弟に任せました」と木村謙一郎さん。——やはりこの地、久之浜にいた誇りと「先祖からの根っ子」を守り続けたいという思いが行動になったようです。

【久之浜編での学び】この上の写真を見れば誰もが衝撃を得る。そして涙が込み上げる。地のご先祖様が神様を祀る場所を決めているのだという。「地の力」は、そこにいた人だから判るのだろう。改めてこの絵から悟らされた。そしてなにより、20代若い皆の力がそこに加わり、サポートチームという言葉借りながら、現実活動していることだ。それは彼ら自身の人生の一部となり、既に動き出しているのだと感じた会でした。文責・吉川盛一